

長引く痛みはなぜ起こる?

PR

vol.09

～新治療 さくがわクリニックのカテーテル治療～

文・佐久川 貴行(さくがわクリニック院長)

(第3週に掲載)



さくがわ・たかゆき

2021年9月、浦添市前田にさくがわクリニックを開院。モヤモヤ血管が原因で起こる長引く痛みで悩む患者さんに運動器カテーテル治療・動注治療を提供。放射線診断専門医。IVR(画像下治療)専門医・指導医。運動器カテーテル治療研究会・監事。

長引く痛みでお悩みの患者さんに運動器カテーテル治療・動注治療を提供する、浦添市前田のさくがわクリニック院長が、さまざまな疾患とその治療法について解説します。

40代以上の女性に多く発症
放置すると徐々に変形が進行

へバーデン結節は、手指の第1関節(爪の付け根近く)の軟骨がすり減り、骨にトゲが出来て、徐々に関節が変形していく関節症の一種です。報告者の名前にちなんでへバーデン結節と呼ばれています。原因としては、加齢、遺伝、更年期障害(女性ホルモンの減少)、手指の使いすぎなどが、まだはっきりとは分かっていません。特に40代以上の女性に多く、加齢とともに発生頻度が増え、数か月～十数年かけて徐々に変形が進行するとされています。

へバーデン結節の初期症状は第1関節の腫れ、赤み、痛みです。指の曲げ伸ばしをする時、指に何か物がぶつかると強い痛みが生じるため、洗濯、食器洗い、お箸を持つ、字を書く、パソコン作業など日常生活に支障を来します。また、初めは1か所でも徐々に他の指にも痛みや変形が生じることは珍しくありません。徐々に変形が進むため、十数年後には曲がった状態で関節が固まってしまつこともあります。

一般的な治療法として、安静、鎮痛薬内服、テーピング、関節内ステロイド注射などがあります。変形が強く、痛みが改善しない場合には手術が検討されることもあります。しかし、指の手術に

手指の第1関節の痛み「へバーデン結節」



指の第一関節が赤く腫れて痛む

対する患者さんの心理的負担は大きいため、手術に踏み切れないことが多いようです。

治療選択肢の一つ、動注治療

当院が手掛ける動注治療(※)は、手首またはひじの動脈に注射針を入れて投薬する治療です。治療薬が血管を通って指の痛みがある所に到達すると、変形した関節の周囲にできた異常血管(モヤモヤ血管)を減らして炎症を引かせると、痛みが軽減が期待できます。報告によると治療1年後でも約75%の方が痛みの軽減した状態を維持できています。当院の動注治療では変形した骨を元に戻すことはできませんが、変形前に治療を行えば、変形の進行を遅らせる可能性があります。痛みが長引く状態、すなわち指の炎症が続く状態を放

置すると、軟骨がすり減り、骨の変形が進むため、「なんとなく痛い」と自覚し始める初期の頃に対処することが大事と考えられています。

治療あきらめないで

動注治療は片手ならば約5分間で治療が終わります。副作用や合併症もほとんどないため、安心して受けて頂けます。初診の方でも当日治療を受け、ご帰宅可能です。治療後の日常生活はいつも通りで構いません。「へバーデン結節は加齢によるものだから痛みと付き合っていくしかない」などの説明を受け、治療をあきらめている方は少なくありません。指の痛みのため日常生活に支障を来している方に、治療選択肢の一つとして検討頂ければと思います。

※動注治療は、オクノクリニック(表参道・銀座・横浜)の奥野祐次総院長が2014年に開発された治療で、年間4千件の治療実績があります。

長引く痛みへのカテーテル治療 当院は自費診療です

五十肩、ひざの痛み、へバーデン結節(指の痛み)、その他関節痛

さくがわクリニック

診療時間	月	火	水	木	金	土
午前 9:00~14:00	●	●	●	▲	●	★
午後 16:20~17:40	●	▲	●	／	／	／

●/外来・手術 ▲/不定期診療 ★/10:00~11:40

浦添市前田1丁目11番1号 1階

予約制 ☎098-877-5577

<https://www.sakugawa-clinic.com/>